

# 研究活動一覽

(本誌掲載分省略)

## 秋 林 こずえ

〈論文〉

- 「WILPFと国連——国連安全保障理事会決議1325号」 中尾邦・杉森長子編『20世紀における女性の平和運動——婦人国際平和自由連盟と日本の女性』ドメス出版 2006年5月
- 「軍事主義に抵抗する女性たち——『東アジア—米国—ブエルト・リコ軍事主義を許さない女性ネットワーク』」 『アメリカ史研究』No.29 日本アメリカ史学会 2006年8月

## 関 下 稔 (朝 日 稔)

〈著書〉

- 『多国籍企業の海外子会社と企業間提携—スーパーキャピタリズムの経済的両輪—』 文眞堂 2006年4月
- 『サービス多国籍企業とアジア経済—21世紀の推進軸— (関下稔、板木雅彦、中川涼司共編)』 ナカニシヤ出版 2006年10月

〈論文〉

- 「東アジア経済共同体への道とその課題」 立命館大学社会システム研究所『社会システム研究』12号 2006年3月

〈教科書〉

- 『改訂版 高等学校 現代社会』(共著) 数研出版 2006年

〈シンポジウム〉

- 「米国と中国を双頭とするスーパーキャピタリズム論序説」 基礎経済科学研究所第29回夏大会 2006年9月
- 「越境化する国際経済学—世界経済論の新たな課題と視角—」 第65回日本国際経済学会全国大会 (会長講演) 2006年10月

〈その他の文筆活動〉

- 「京都から世界への飛翔—立命館大学国際関係学部18年の軌跡—」 『大学時報』308号 2006年5月
- 「(巻頭言) グローバリゼーションの二つの道—パクス・アメリカニズムとグローカリズム—」 『世界経済評論』50巻5号 2006年5月

## 安 齋 育 郎

〈著書〉

- 『平和を拓く—安齋育郎教授退職記念論集』(共著) かもがわ出版 2006年2月

立命館国際研究 19-3, March 2007

- 『全員勝ったで!』(編著) かがわ出版 2006年7月
- 『北朝鮮の核実験をどう見るか』(編著) かがわ出版 2006年12月
- 『ビジュアルブック語り伝える沖縄』第一巻(単著) 新日本出版社 2006年12月
- 〈その他の文筆活動〉
- 「手を結ぼう、平和博物館」 立命館大学国際平和ミュージアムだより 第13巻3号 2006年3月
- 「シヴァとガネーシャの像を見ながら」 立命館大学国際平和ミュージアムだより 第14巻1号 2006年8月
- 「シルヴィア・スモラーさんが立命館大学にやってきました」 立命館大学国際平和ミュージアムだより 第14巻2号 2006年12月

### 安藤次男

〈著書〉

- 『ニューフロンティア国際関係』(共編著) 東信堂 2006年4月

### 石原直紀

〈著書〉

- 『ニューフロンティア国際関係』奥田宏司、本名純編(共著)「第5章 現代の平和」 東信堂 2006年4月

### 板木雅彦

〈単著〉

- 『国際過剰資本の誕生』 ミネルヴァ書房 2006年3月

〈編著〉

- 『サービス多国籍企業とアジア経済』関下稔、板木雅彦、中川涼司編 ナカニシヤ出版 2006年10月

〈論文〉

- 「国際過剰資本の誕生」 経済理論学会編『季刊 経済理論』第43巻2号 2006年7月  
経済理論学会

### 井上純一

〈翻訳〉

- J.ハーバーマス『テキストとコンテキスト』(J.Habermas:Texte und Kontexte) (共訳) 晃洋書房 2006年5月

及川 正博

〈論文〉

「ナチ・ユダヤ人強制収容所と『創世記』の世界  
—『転落の後に』における罪と悪の問題」 『立命館言語文化研究』18巻1号 2006年8月  
立命館大学国際言語文化研究所

大島 堅一

〈著書〉

『地球環境保全への途』（共編著） 有斐閣 2006年

『クリティーク国際関係』（分担執筆） 東信堂 2006年  
第6章「グローバル時代の環境危機」

『アジア環境白書 2006/07』（共編著） 東洋経済新報社 2006年

環境経済・政策学会編『環境経済・政策学の基礎  
知識』（分担執筆） 「軍事と環境問題」 有斐閣 2006年

〈論文〉

「基地と環境問題」（林公則・一橋大学大学院経済学  
研究科との共著） 『季刊環境研究』第35巻2号 2006年

小木 裕文

〈論文〉

「華人ネットワークと中国僑郷の事例研究」 松下洸編『途上国社会の現在』 2006年2月  
法律文化社

奥田 宏司

〈著書〉

『現代国際金融』（共編著） 法律文化社 2006年4月  
第2章「外国為替と国際通貨」3章「為替相場と  
円高・円安」12章「東アジアの為替制度とドル・  
円・人民元」

夏 剛

〈著書〉

松野周治・徐勝・夏剛編著『東北アジア共同体への道  
—現状と課題』、編集及び第7章 文真堂 2006年3月  
「“東北アジア共同体”結成の求心力と遠心力—  
“文化縁・文化溝・文化力”に即した考察」担当

西口清勝・夏剛編著『東アジア共同体の構築』、編集及び  
第7章「東アジア共同体構築の隘路と進路  
—中国の政治文化と日本の企業文化を手掛りに」  
担当 ネルヴァ書房 2006年8月

〈論文〉

「中国社会、文化多面比較：風土、国情篇  
——地縁人文層次的考察（1）」

『立命館言語文化研究』18巻1号  
立命館国際言語文化研究所 2006年8月

「中国社会、文化多面比較：風土、国情篇  
——地縁人文層次的考察（2）」

『立命館言語文化研究』18巻2号  
立命館国際言語文化研究所 2006年12月

〈その他の文筆活動〉

「文温」で「政冷・経涼」融かせ

『京都新聞』「論考」欄 2006年1月

「碑林」礼賛

『あした』誌39巻7号  
俳社「あした」 2006年7月

桂 良太郎

〈著書〉

Social Security for Long-Term Care in Japan

“CHALLENGE OF SOCIAL CARE IN ASIA” Marshall Cavendish Academic, Edited by Ngoh Tiong Tan and S.Vasoo 2006年4月

〈学会報告〉

“Importance of International Welfare and Peace Education- From the Relation with Welfare for Disabled-”

7<sup>th</sup> ASEAN Inter-University Seminar in Hanoi, Vietnam (19~21 July 2006) 学会要約集 ASEAN Inter -University Seminar 2006年7月

「日本におけるソーシャルワークの現状と課題について」

第15回ベトナム障害児教育福祉セミナー  
於：ハノイ師範大学 2006年8月

「国際福祉と平和教育および研究の重要性について」

中国・南京市 国際平和会議  
2006年 会議収録集 2006年9月

“A Study of the problem on Asia’s graying population”

The 1st International Consortium for Social Development Conference on “Globalization, Development and Human Security in the Asia-Pacific Region” 報告集 2006年10月

河村（丸岡）律子

〈学会報告〉

立命館大学国際関係学部におけるGSG  
(体験セッション)

日本シミュレーション&  
ゲーミング学会 2006年度  
秋季全国大会 2006年11月

## 君島東彦

## 〈著書〉

『「改憲」異論3 九条と民衆の安全保障』（共著）	現代企画室	2006年4月
『ニューフロンティア国際関係』（共著）	東信堂	2006年4月
『“改革の時代”と憲法』（共著）	敬文堂	2006年10月

## 〈論文〉

「人道的危機への非暴力的介入——日本国憲法とNGO」	『社会と倫理』20号 南山大学社会倫理研究所	2006年12月
----------------------------	---------------------------	----------

## 〈学会発表〉

「平和構築の憲法理論」	憲法理論研究会春季研究総会	2006年5月
「グローバルな立憲主義のかたち」	日本平和学会秋季研究集会 「憲法と平和」分科会	2006年11月

## 〈講演〉

「地球社会の憲法について考える」	京都自由大学	2006年7月
「いま憲法の平和主義をとらえなおす——『しない』平和主義と『する』平和主義」	鯖江九条の会	2006年7月
「NGOの働きに学ぶ——もうひとつの世界を目指して」	京都YMCA	2006年8月
「戦後史と平和の選択——東アジアにおける日本国憲法」	「歴史認識と東アジアの平和」 フォーラム京都会議	2006年11月
“Revisiting the Pacifism of the Japanese Constitution”	Ewha Womans University Graduate School of International Studies, Seoul, Korea	2006年11月

## 〈シンポジウム〉

“Global Partnership for the Prevention of Armed Conflict, Northeast Asia Roundtable Meeting”	Seoul, Korea	2006年3月
“Building Peace in East Asia: Reconsidering the Japanese Constitution and Approaching Postwar Compensation Lawsuits”	World Peace Forum 2006 in Vancouver	2006年6月
“Article 9 of the Japanese Constitution: Common Treasure of the Humankind for Peace”	World Peace Forum 2006 in Vancouver	2006年6月

## 〈その他の文筆活動〉

「世界の平和運動はいま——この10年を振り返って」	『平和文化』160号 広島平和文化センター	2006年3月
“The Current World Peace Movement—Looking Back on the Past Ten Years”	<i>Peace Culture</i> No. 56 広島平和文化センター	2006年4月
「世界平和フォーラムに参加して——日本国憲法9条のグローバリゼーション」	『立命館大学国際平和ミュージアムだより』14巻1号 立命館大学国際平和ミュージアム	2006年8月

清 本 修 身

〈論 文〉

『ニューフロンティア国際関係』奥田宏司、本名純編 東信堂 2006年4月  
(共著)「情報文化と社会」

〈年 鑑〉

「東南アジア各国」 『ブリタニカ国際年鑑 2005年 2006年2月  
度版』ブリタニカ・ジャパン社

佐 藤 誠

〈論 文〉

「CSRとグローバリゼーション」 『いのちとくらし』15号 2006年5月  
非営利・協同総合研究所

〈報 告〉

“Human Security and Japanese Diplomacy:  
Debates on the Role of Human Security in  
Japanese Policy” Seminar for Joint Research 2006年3月  
Project between University  
of Pretoria and Ritsumeikan  
University, at University of  
Pretoria on 10<sup>th</sup> March 2006

末 近 浩 太

〈著 書〉

小杉泰・江川ひかり編『イスラーム：社会生活・  
思想・歴史』(共著) 新曜社 2006年7月  
「イルム(知)：世界を探究するイスラーム学者たち」  
「ウンマー国家と政治：ネイション・ステイトに再考  
をせまる」  
「法学者：イスラーム社会を護持する」  
「イスラーム革命：いかに国民の政治要求とイスラーム  
意識をくみ取るか」  
「イスラームと現代政治：イスラームは現代文明を否  
定しない」

〈論 文〉

「レバノン包囲とヒズブラー」(連載講座：中東の  
政治変動を読む⑥) 『国際問題』第555号, 2006年10月 2006年10月 日本国際問題研究所

「レバノン」をめぐる闘争：ナショナリズム、  
民主化、国際関係」 『中東研究』No.494, 2006/2007, 2006年12月  
Vol.3 中東調査会

〈シンポジウム〉

“Arab Nationalism Twisted?: The Syrian Ba’th  
Regime’s Strategies for Nation / State-building” JCAS International Symposium, 2006年1月  
“Enduring States: Considering  
States in Light of Nations and  
Ethnic Groups” (“消滅しな  
い国家：民族を通して考える”)、  
東京大学 国立民族学博物館地域  
研究企画交流センター (JCAS) 主催

〈その他の文筆活動〉

「中東政治を左右する存在：「ヒズボラー」とは何か」 『外交フォーラム』第219号, 2006年10月号 都市出版 2006年9月

高橋伸彰

〈論文〉

「世界の中の日本経済」 安藤次男他編著『ニューフロンティア国際関係』第10章 東信堂 2006年5月

〈その他の文筆活動〉

「景気回復劇」の舞台裏で 『世界』2006年3月号 岩波書店 2006年3月

回復に一喜一憂してよいのか 『経済セミナー』2006年2, 3月号 2006No. 613・614 日本経済評論社 2006年3月

「消費者利益」は最優先されるべきか 『週刊エコノミスト』 2006年4月25日号 毎日新聞社 2006年4月

郵政民営化と公共サービスの関係について 『法律時報』2006年78巻6号 日本評論社 2006年6月

竹内隆夫

〈論文〉

「東アジア・東南アジアの家族変動」 北川隆吉・監修『地域研究の課題と方法—アジア・アフリカ社会研究入門—』〔実証編〕文化書房博文社 2006年12月

龍澤邦彦

〈著書〉

松下洸編『途上国社会の現在 国家・開発・市民社会』（共著）「国連の民主化及びアフリカの人権」 法律文化社 2006年2月

〈論文〉

“La situation juridique du passager au bord d'un vehicule spatial” Chronique spatiale 2005 le Groupe de travail sur le droit de l'espace, Paris 2006年

中川涼司

〈論文〉

松野周治・徐勝・夏剛編『東北アジア共同体への道』（共著）第4章「中国の『経済成長方式転換』とソフトウエア・アウトソーシング—大連の役割—」 文真堂 2006年

- 関下稔・板木雅彦・中川涼司編『サービス多国籍企業とアジア経済』（共編）第8章「対中サービス直接投資とITサービス」 ナカニシヤ出版 2006年
- 〈その他の文筆活動〉
- 21世紀中国総研編『中国情報源2006-2007年版』（共著）[特集3] 3.「中国情報通信産業についての情報源」 蒼蒼社 2006年
- 「IT」 『中国産業動向季報』通巻第6号 新華通信ネットジャパン 2006年2月
- 「IT」 『中国産業動向季報』通巻第7号 新華通信ネットジャパン 2006年5月
- 「IT」 『中国産業動向季報』通巻第8号 新華通信ネットジャパン 2006年8月
- 「IT」 『中国産業動向季報』通巻第9号 新華通信ネットジャパン 2006年11月
- 〈学会報告〉
- 「中国のIT産業——経済成長方式転換の中での役割——」 経営史学会関西支部会4月例会（大阪学院大学） 2006年4月
- 「聯想のIBM PC事業部買収の意義と課題について」 中国経営管理学会第7回大会公開シンポジウム「中国企業の海外進出と国際経営」パネリスト報告（愛知大学車道校舎） 2006年5月
- 「近年における中国IT産業の発展構造」 日本国際経済学会関西支部総会部会（近畿大学） 2006年6月
- 「中国の経済成長方式転換とIT産業」 中国経済学会第5回全国大会（愛知大学車道校舎） 2006年6月
- 〈学会報告コメント〉
- 細川孝（龍谷大学）報告「グローバル・ガバナンスと現代医薬品企業—必須医薬品（essential drug）問題を中心に—」へのコメント 日本経営学会関西支部会第540回例会（龍谷大学） 2006年4月
- 中 達 啓 示**
- 〈著 書〉
- 『東アジア共同体という幻想』 ナカニシヤ出版 2006年8月
- 『東アジア共同体の構築』（共著）「日本の北朝鮮政策—小泉首相と拉致問題」 ミネルヴァ書房 2006年8月



星野 郁

〈著書〉

『金融のグローバリゼーションの理論』（共著）  
第6章第1節「EMS」 大月書店 2006年5月

本名 純

〈著書〉

*Serdadu Memburu Hantu: Ideologi Kewaspadaan di Senjakala Kekuasaan Orba* (単著) Center for Information Analysis (Yogyakarta) 2006年

『ニューフロンティア国際関係』（共著） 東信堂 2006年

〈論文〉

“Dominance, Twilights and Legacies of Power: Indonesian Army in Politics during and after the Soeharto Era” Marie-Eve Blanc, Gilles de Gantès and Tobias Rettig (eds), *Armies and Societies in Southeast Asia c.1750-2000 Paris: Les Indes Savantes* 2006年

“Civil-Military Power Equilibrium in Indonesia: Regime Change, Guardianship, and Political Activism of the Military in the Historical Context” *Southeast Asian Studies* (Vol. 44) Kyoto University 2006年12月

“ASEAN Security Community and its Agendas of Non-Traditional Security Cooperation: The Case of Transnational Crime” paper presented at the international conference, “2nd Japan-Indonesia Maritime Security Dialogue,” organized by Ocean Policy Research Foundation (OPRF), Tokyo 2006年11月

「深刻化する東アジアの越境犯罪」 月刊『治安フォーラム』 2006年12月号 立花書房 2006年11月

“Local Civil-Military Relations during the First Phase of Democratic Transition, 1999-2004: A Comparison of West, Central and East Java” *Indonesia*, Vol.82, October 2006 Cornell University 2006年10月

〈報告書〉

「ユドヨノ政権一年目の政治——改革・復興・治安・選挙」 『インドネシアの政治・経済情勢の変化に沿った我が国の取組』（財務省委嘱調査）国際金融情報センター 2006年1月

「東アジアにおける非伝統的安全保障問題としての越境犯罪——現状・地域的取組・我が国の協力」 『東アジア地域における非伝統的安全保障および環境問題』（外務省委嘱研究）東アジア共同体評議会 2006年3月

「第5章 治安と開発」 『東南アジア地域援助研究会——地域統合と開発援助』国際協力機構（JICA）国際協力総合研究所 2006年3月

〈その他の文筆活動〉

「コラム：インドネシア・森林破壊の政治学」	『アジア環境白書2005/2006』 東洋経済新報社	2006年
「インドネシア／陸軍将官による武器隠匿事件」	『世界週報』2006年11月 7日号 時事通信	2006年11月
「インドネシア／ODAによる初の「武器」供与と海賊対策」	『世界週報』2006年6月27日号 時事通信	2006年6月
「インドネシア／史上初となる空軍出身国軍司令官誕生の背景」	『世界週報』2006年2月14日号 時事通信	2006年2月
〈講 演〉		
「東南アジアのイスラムを考える——インドネシアにおける伝統主義・急進主義・過激主義を中心に」	国際情勢研究会（内閣府社団 法人）	2006年12月
〈調査報告〉		
“Transnational Crime as a Non-Traditional Security Issue: Challenges and Initiatives of East Asian Community”	2nd International Conference of NEAT Working Group on “Overall Architecture of East Asian Community,” Network of East Asian Think-Tanks, Tokyo, April 24-25	2006年4月
「東アジアの非伝統的安全保障問題としての越境犯罪」	(財) 日本国際フォーラム	2006年3月

松 下 冽

〈著 書〉

『途上国社会の現在：国家・開発・市民社会』（編著）	法律文化社	2006年2月
「発展途上国の現在と可能性」（単著）	『途上国社会の現在：国家・ 開発・市民社会』法律文化社	2006年2月
「発展途上国における「下からのグローバリゼーション」——インドとブラジルにおける参加と民主主義の実験——」（単著）	『長崎平和研究』No.21 長崎平和研究所	2006年4月
〈講 演〉		
「途上国研究の現在」	主催：21世紀研究会	2006年5月

松 田 正 彦

〈調査報告〉

「ミャンマーにおける近年の情勢報告：農業分野」	国際協力機構（JICA） ミャンマー経済構造調整 支援フォローアップ会議	2006年6月
「ミャンマーの農業と農村の変容：シャン州北部の中国国境地域を中心に」	東アジア地域研究会	2006年12月

文 京 洙

〈論文〉

「韓国における市民社会と公共圏  
—デジタル・デモクラシーの射程」 松下洙編『途上国社会の現在 2006年2月  
国家・開発・市民』法律文化社

「韓国の人権 過去・現在・未来」 『月刊部落開放』12月号 2006年11月  
解放出版社

〈翻訳監修〉

許榮善著『済州四・三』 民主化運動記念事業会（韓国） 2006年10月

〈項目執筆〉

環日本海学会編『北東アジア事典』 国際書院 2006年10月

森 岡 真 史

〈書評〉

「塩沢由典編『経済思想1』、吉田雅明編  
『経済思想2』」 『季刊経済理論』第42巻 2006年1月  
第4号 経済理論学会

〈その他の文筆活動〉

「移行経済」「私的所有」「設計主義」「定常性」 塩沢由典他編『進化経済学  
ハンドブック』 共立出版 2006年8月

山 田 人 士

〈論文〉

「文化の国別カテゴリー化から個と個の関係性重視  
の文化観へ」 『亜細亜文化研究』第10輯 2006年2月  
韓国暎園大学亜細亜文化研究所

「中国・韓国・台湾からの留学生の意識変化  
～21世紀以降の数年を中心に」 『立命館国際地域研究』24号 2006年3月  
立命館大学国際地域研究所

若 菜 マ ヤ

〈学会報告〉

“Transatlantic Nathaniel Hawthorne: Henry  
James, Erving Goffman, and Hawthorne’s “The  
Minister’s Black Veil.” “Transatlanticism in 2006年7月  
American Literature: Emerson,  
Hawthorne, and Poe.” エマ  
ーソン学会、ホーソン学会、  
ポー学会共同開催  
オックスフォード大学共催

“Art Imitating Artful Life: The Case of ‘The  
Aspern Papers.’” 37<sup>th</sup> Annual Convention of 2006年3月  
Northeast Modern Language  
Association (NEMLA)

**Peter Mauch**

〈論文〉

- “Japan’s Cold Warrior: Nomura Kichisaburō and Japan’s Pre-Korean War Security” 同志社法学 第316号 2006年9月  
麻田貞雄教授退職記念論集  
同志社法学会
- “New Evidence from Japan: The Emperor and Nomura Kichisaburō, October 1949” *Diplomacy and Statecraft*, 2006年6月  
vol. 17 no. 2 Routledge,  
Taylor and Francis Group.
- 「野村吉三郎文書」について：占領期における野村の講和構想・安全構想 国史研究室通行 第32号 2006年3月  
京都大学讀史会

**Giorgio SHANI**

〈論文〉

- 第13章帝国の逆襲：グローバルな世界の南側におけるグローバリゼーション、テロとの戦い、そして人間の安全保障（の欠如）訳 水野賢二 『途上国社会の現在』松下列編集 法律文化社 2006年2月
- “The War on Terror and the Re-legitimization of Empire” Obiya, Chika and Kuroki, Hidemitsu (eds) “Political Violence and Human Security in the Post-9.11 World” (JCAS Symposium Series 24; State, Nation, and Ethnic Relations IX) 2006年2月
- Empire, Liberalism and the Rule of Colonial Difference: Colonial Governmentality in South Asia Ritsumeikan Annual Review of International Studies, Vol. 5 2006年12月
- “Two Nations’: The Religious and the Secular Dimensions of Muslim Nationalism in Colonial India Ritsumeikan International Affairs, Vol. 5 2006年12月

〈学会発表〉

- “The Limitations of the ‘Human Security Approach’: ‘Democratic Imperialism’, Neo-Liberal Globalization and Human Insecurity in the Global South” International Studies Association (ISA) Annual Convention, San Diego, California, USA. 2006年3月
- “De-secularizing Critical Theory: Religion, International Relations and the ‘Myth of 1648’” International Political Science Association (IPSA) 20th World Congress, 福岡 2006年7月

**Michael Sutton**

〈論文〉

- “Asia Pacific Regionalism in the 1990s: Cooperation, Consensus and Conflict” Ritsumeikan Annual Review of International Studies Vol. 5 2006 2006年12月

〈講演会〉

“Movements of freer trade in goods and services:  
Open regionalism and the Asia Pacific”

Ritsumeikan Asia Pacific  
University Asia Pacific  
Conference, “Global  
Movements in the Asia Pacific”

2006年11月

**Michel WASSERMAN**

〈著書〉

*LE SACRE DE L'HIVER-LA NEUVIEME  
SYMPHONIE DE BEETHOVEN, UN MYTHE DE  
LA MODERNITE JAPONAISE-*

LES INDES SAVANTES

2006年

〈講演会〉

“CLAUDEL ET KYOTO”

“CLAUDEL ET LE JAPON  
クローデルと日本” クローデル  
没後50年 国際会議・シン  
ポジウム論文集 七月堂

2006年